



神奈川大会決勝、慶応 6—5 横浜

2023年7月26日

慶応、九回逆転 3 ラン甲子園へ

横浜破り 5 年ぶり夏

殊勲渡辺千之亮「信じられない」

神奈川大会 慶応—横浜 九回表、逆転の 3 点本塁打を放ち、ダイヤモンドを回る慶応の渡辺千之亮(3 年)



春夏連続の甲子園出場を決め、喜ぶ慶応の選手たち=2023年7月26日午後1時10分、いずれも、横浜、大賀章好撮影



三回表慶応 1 死二塁、丸田が左中間に先制適時三塁打を放つ。投手杉山、捕手椎木=午前 10 時 41 分



一回表慶応 1 死、八木が右越え二塁打放つ=午前 10 時 9 分

2 万 7 千人が詰めかけた横浜スタジアムは、異様な雰囲気にも包まれていた。

2 点を追う九回無死一塁。慶応の丸田湊斗が二塁に平凡なゴロを打ってしまった。二塁手が捕

球して併殺を狙ったが、一塁も二塁もセーフ。遊撃手が二塁ベースを踏んでいないと判定された。

春夏の甲子園出場を狙う慶応の前には、1年生からエースナンバーを背負う横浜の3年生左腕、杉山遥希が立ちはだかっていた。八回は3者連続三振を食らっていたが、この土壇場で好機を作った。

犠打で1死二、三塁として、打席には3番の右打者、渡辺千之亮。1打席目にチェンジアップを空振り三振した後は、球を見極めて、3打席連続の四球だった。

フルカウントとなり、「とにかく当てることだけ」。内角高めにチェンジアップが来た。体をくると回転させて引っ張った。左方向に打ち上がった打球は左翼フェンスを越えて、逆転の3点本塁打となった。応援歌「若き血」の大合唱が響いた。

「打った自分でも信じられないです」

華やかに試合を決め、チームの売りは今大会7試合6本塁打の長打力だ。ただ、この試合は序盤から緻密（ちみつ）な攻撃を見せた。春以降、「打てなくても犠飛や内野ゴロで点を取ることを突き詰めてきた」と主将の大村昊澄は言う。

この試合はチームで計5犠打飛。三回は敵失で先頭打者を出すと、犠打で送り、1番丸田が先制の適時三塁打。八木陽がきっちりセンターに打ち上げ、犠飛で2点目を挙げた。四回は犠打と進塁打で2死一、三塁の好機を作り、本盗もしかけた。六回の3点目も8番渡辺憩の犠飛だ。

毎回のように入点圏に走者を進め、じわじわと杉山にプレッシャーを与えた。そして、渡辺千の一発で決着をつけた。

春の選抜では昨夏の甲子園で優勝した仙台育英（宮城）に延長タイブレークの末に1-2で敗れ、「全国との差を知った」と大村。今大会は準決勝で東海大相模をコールドで下し、決勝で横浜を破った。ともに全国制覇経験のある強豪だ。

大村はがらがらにかれた声で言った。「神奈川大会で勝てたことは自信になる。ただ、まだまだ通過点。一つずつ、日本一への階段を上っていきたい」
=横浜（大宮慎次朗）

一回裏横浜無死、緒方が左前安打放つ。投手小宅、捕手渡辺憩=午前10時15分

朝日新聞 DIGITAL

今春の選抜大会に出場した慶応が26日の神奈川大会の決勝で3連覇をめざした横浜を九回表の逆転本塁打で6-5で破り、5年ぶり19回目の甲子園出場を決めた。

慶応は三回に丸田湊斗の適時三塁打と八木陽の犠飛で2点を先制。五回に横浜の萩宗久の本塁打で1点差に詰め寄せられたが、六回に渡辺憩の犠飛で1点を追加し、突き放した。だがその直後に3点を奪われて逆転を許し、七回にも本塁打で1点を追加された。

それでも、慶応はあきらめなかった。九回、1死二、三塁から渡辺千之亮の3点本塁打で逆転。5年ぶりの甲子園をたぐり寄せた。

慶応はこれまで春夏合わせて28回の甲子園出場。昨秋の関東大会4強で、選抜大会では初戦で仙台育英（宮城）と十回タイブレークの接戦を繰り広げたが、1-2で惜敗した。春の県大会では決勝で相洋を11-0で破り、優勝を果たした。



朝日新聞デジタルを定期購読でご覧ください

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission. (黄地紋・林 莊祐)